

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月17日 更新

事務事業名		決算事務				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4 みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	総務部	課長名	松本 直喜
	施策	26 財政改革の推進				所属課	財政課	担当者名	岩田 建一
	基本事業	92 健全な財政計画の策定				所属班	財政班	(内線)	1241
予算科目		会計一般	款 2	項 1	目 5	事業連番 11111	法令根拠	地方自治法第233条 成果優先度評価結果 : ⑪ コスト削減優先度評価結果 : ⑥	
終了、開始年度		☐ 26年度で終了 ☐ 26年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	地方自治法第233条に基づき、合併前の町制施行時から実施している事務であり、毎会計年度の決算書および、関係書類を取りまとめ、審査に付すため監査委員へ提出し、併せて、決算認定議会の資料作成を行っている。 本市においては、高齢化や社会情勢の変化に伴う社会保障費等の増加や、公共施設更新に伴う普通建設事業費の増加が予想され、財政の硬直化が懸念されているため、決算状況を分析し、次年度以降の予算編成に反映していく必要がある。
【業務の流れ】	一般会計、特別会計、公営企業会計の決算書及び、関係書類の内容を精査のうえ、決算審査に付すために監査委員へ提出する。・決算認定議会の説明資料及び決算認定に係る提案理由も併せて作成する。
【主な予算費目】	なし
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	特に聞いていない

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動)(DO)		27年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
事務事業の内容のとおり実施した。		26年度と同じ	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ア:成果説明資料作成等に要した日数	日	予算計上なし	
→イ:			
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)(単位)	
市の決算		→ア:歳入決算額	千円
		→イ:歳出決算額	千円
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)(単位)	
予算と決算を比較することができる。・実質収支の推移が分かる。		→ア:実質収支額	千円
→イ:			
*③成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
実質収支額を指標とすることで、市の決算状況が黒字か赤字かを確認できるとともに、良好な財政状況かを確認できる一つの指標であるので設定した。目標値については、中長期財政計画の数値を用いている。			全体計画 ～ 年度
			0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	24年度 実績(決算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	28年度 予定	29年度 見込	30年度 見込
① 活動指標	ア	日	70	70	70	70	70	70	70	70
	イ									
② 対象指標	ア	千円	18,918,837	19,389,099	17,968,000	20,512,775	17,769,000	17,458,000	17,459,000	17,339,000
	イ	千円	17,617,226	18,339,139	17,213,000	19,584,022	16,960,000	16,547,000	17,007,000	17,607,000
③ 成果指標	ア	千円	969,377	766,002	755,000	761,284	809,000	911,000	452,000	△268,000
	イ									
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円							
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外・特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	136	128	130	112	130	130	130
		延べ業務時間	時間	6,593	6,167	6,000	5,459	6,000	6,000	6,000
		(B) 人件費計	千円	26,840	24,569	23,904	21,748	23,904	23,904	23,904
トータルコスト(A)+(B)		千円	26,840	24,569	23,904	21,748	23,904	23,904	23,904	

事務事業名	決算事務	所属部	総務部	所属課	財政課
-------	------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は26年度的事後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 税収及び地方交付税の増は不透明であるが、効率的な予算執行を行えば、目標の達成見込はある。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 決算による市の財政の現状認識（資金収支）が意図であり、成果の向上余地はないが、法に基づき継続して実施する事業である。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 地方自治法で定められており、連携の余地はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費なし
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 地方自治法に沿って事務を執行しており、方法は他になく成果を下げずに人件費の削減はできない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 この事務は市の財政運営にかかるもので、特定の受益者はおらず、市全体にかかっているため公平となっている。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 地方自治法に基づく事務であり適正である

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

平成26年度も関係課と連携を取り、事故なく関係書類を取りまとめ、監査委員による決算審査に付することが出来た。また、議会の決算認定においても、認定の議決がなされ、目的は達成出来た。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							